

木材会館で記念講演

木材のリラックス効果を説明

東京原木協組ほか

東京原木協同組合(東京都、亀井吉隆理事長)と東京木材問屋協同組合(同、渡辺昭理事長)は3月25日、木材会館で「木材セラピー」出版記念講演会を開いた。東京原木協同組合設立70周年と、同協組が木材のリラックス効果について千葉大学環境健康フールド科学センターと共同研究し、宮崎良文同センターグラントフェロー(当時、現・千葉大学名誉教授)と池井晴美同センター特任助教が成果をまとめた「木材セラピー」の出版を記念したものだ。当日は宮崎氏、池井氏が講師を務め、両協組に所属する材木店を中心に140人が聴講した。

一條達雄東京原木協同組合副理事長(一條ランバー社長)はあいさつで、「当協組は、4年前から千葉大学と

くの人の尽力があったからこそ出版することができた。一人でも多くのの人に読んでほしい」と述べた。

講演会は池井氏の前頭部にセンサーを取り付け、脳前頭野活動を計測しながら進行的。まず、宮崎氏が登壇し、「木材セラピー」の目的は、木材と人の関係を解明することだ。この解明により、木材がもたらす生理的リラックス効果や免疫機能改善効果が明らかになる」と木材セラピーの概念を話した。ま



講演会は、池井氏の脳前頭野活動の数値を左のスクリーンで示しながら進行的

実施し、前頭野活動の鎮静化や交感神経活動の抑制、副交感神経活動の活性化を確認した。その結果、木材が人間のストレスを低減しリラックス

た、木材セラピー研究の現状についても触れ、木材研究分野と医療分野で連携が十分に取れていないという問題点に言及した。

池井氏は、東京原木協同組合との共同研究などで得られた具体的な研究成果を発表した。同センターは桧材や杉材を用いた触覚、嗅覚、視覚刺激実験を

対象にした研究を進めていく。また、東京木材問屋協同組合との共同研究で、木材会館を使用したフールド実験を4年間実施し、今月から生理計測を行うことも発表した。

早期発注や供

大型工場は在庫回

第4回東北森

東北森林管理局(宮澤俊輔局長)は、2021年度第4回国有林材供給調整検討委員会を開き、検討結果を3月24日に公表した。各種大型工場で原木不足が続いているが入荷や在庫は増加傾向にある。ただ、地域によって国産材原木価格の高